

いせえび太平洋中・南部系群

(小笠原諸島周辺海域)

評価対象種：アカイセエビ（小笠原諸島海域）



令和7年4月

資源の水準と動向「不明」

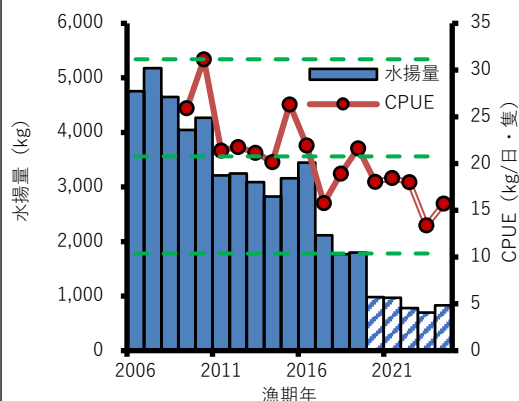


図1 水揚量とCPUEの推移
(2020年以降、父島では試験操業のみ)

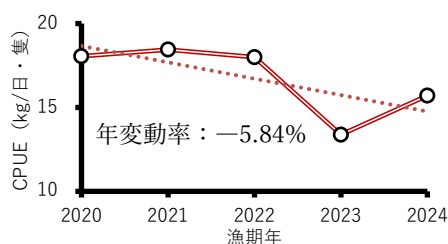


図2 アカイセエビ CPUEの年変動率

2006年以降の小笠原諸島海域におけるアカイセエビの水揚量は2007年以降減少傾向であり（図1）、小笠原島漁業協同組合（父島）では2020年以降は自主禁漁とし、標識放流を目的とした試験操業のみの実施となっている。

2009年以降のCPUE（アカイセエビ籠漁業1日1隻あたりの水揚量）は、増減を繰り返しながら徐々に減少している（図1）。直近5年間は、18.6 kg/日・隻～13.4 kg/日・隻で推移した（図2）。

本資源評価票の資源量指標値はCPUEとした。2024年における資源の水準は、CPUEが最大値となった2010年の31.4 kg/日・隻の1/3以上2/3未満である15.7 kg/日・隻のため「中位」に相当するものの、2020年以降の小笠原島漁業協同組合の操業が全て試験操業となっていることをふまえ「不明」と判断した。

資源の動向は、直近5年間のCPUEから算出した年変動率が-5.84%であり、年間5%以上の減少となっているため「減少」に相当するものの、資源の水準と同様の理由から「不明」と判断した。

生態学的特性

- 分布・回遊：小笠原諸島を中心に生息している¹⁾。
- 年齢・成長：孵化した幼生は約1年の浮遊生活を送った後に着底し、その後は頭胸甲長が100 mmに達するまでに雄では約7年、雌では約10年かかるとされている²⁾。
- 成熟・産卵：小笠原海域では、夏季に産卵盛期を迎える²⁾。
- 被捕食関係：飼育下においては魚類や貝類を摂餌する²⁾。

東京都におけるアカイセエビ漁

- 漁業：小笠原諸島の各島において第一種共同漁業権の対象種であり、重要な磯根資源となっている。
- 漁法：父島では籠、母島では籠および手鉤を用いた潜水漁業により漁獲される。
- 管理：東京都漁業調整規則において採捕禁止期間の設定（6～8月）や大きさの制限（全長*22 cm）が設定されている。また、第一種共同漁業権行使規則において、操業期間を制限する他、漁具・漁法の制限や体長制限等が定められている。東京都資源管理方針に基づく資源管理協定を策定し、父島ではいせえびかご漁業において自主的資源管理（禁漁期間の設定・漁獲量の総量規制）に取り組んでおり、さらに父島における水揚量が減少していることから2020年以降は自主禁漁としている。

*全長は目のつけ根から尾の末端まで

- 1) [東京都小笠原水産センター．2005．「アカイセエビ」の成長．海洋島，7（2）](#)
- 2) [東京都島しょ農林水産総合センター．2021．小笠原におけるアカイセエビの成長～アカイセエビ採集・飼育試験～．令和3年度東京都島しょ農林水産総合センター主要成果集](#)